

川崎重工業が推進システムを受注した電動タンカーのイメージ(旭タンカー提供)

# 世界初、電動タンカー建造へ

## 川崎重工推進システム受注

### 環境負荷を低減

川崎重工業（神戸市中央区）は8日、世界初となる電動タンカーのバッテリー推進システムを受注したと発表した。重油エンジンと比べて大幅に環境負荷を低減する。海運会社の旭タンカー（東京）が発注する総トン数約499ト、全長約60メートルの運搬船。東京湾に停



泊する客船などへの燃料供給に使う計画という。

2隻を興亜産業（香川県丸亀市）と井村造船（徳島県小松島市）が建造する。2022年3月に1隻目の完成を目指している。

電気自動車（EV）約100台分の大容量リチウムイオン電池でスクリューを回す。温室効果ガスが出ず、環境負荷が減る。従来の船でエンジンの運転に要していた人手がかからなくなり、乗組員の作業も軽くなる。災害時に非常用電源として使うことも想定する。

川重のシステムは、電池や推進制御装置、電力管理装置などで構成。効率よい動力の伝達を支える。センサーで異常を検知する機能も搭載する。

国際的に、船舶からの二酸化炭素や窒素化合物などの排出規制強化が進んでいる。川重は「今後も環境に配慮するシステムの供給に注力する」としている。（長尾亮太）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

①大きさはどれくらいですか。

総トン数約  トン、全長約  メートルの運搬船

②特徴を書きこみましょう。

電気自動車（EV）約  台分の大容量

電池でスクリューを回す。

ガスが出ず、環境負荷が減る。

従来の船でエンジンの運転に要していた  がかからなくなり、

乗組員の作業も軽くなる。

災害時に  として使うことも想定する。